



令和7年度県南社会教育主事協議会総会・第1回研修会

5月14日(水)に、大仙市仙北ふれあい文化センターにて、県南7市町村の生涯学習・社会教育担当の職員36名が参加し、行われました。

総会は、事務局の大仙市から令和7年度の事業計画・予算(案)が示され、全会一致で承認されました。

研修会は、秋田県生涯学習センターの柏木副主幹兼学習事業チームリーダーをはじめ、センター職員の7名を講師としてお迎えし、「『熟議』の良さを知り、進め方を学ぶ～ファシリテーターとしての心構え～」というテーマで、講義・演習を行いました。

実際に「秋田県の子どもたちにどう育ってほしいか」がテーマの「熟議」を体験し、参加した皆さんは、自分の立場から子どもたちをどう育てていけばいいのか思いを付箋に書きながら、意見交換を活発に行っていました。

その後、ファシリテーターとして熟議を進めていくポイントを解説していただきました。地域でどのような子どもたちを育てるのか、何を実現していくのかという学校づくりの目標を共有できるだけでなく、持続可能な地域づくりにもつながる「熟議」をどのように進めていけばいいのかを研修するよい機会となりました。

今回の総会・研修会は、大仙市教育委員会の皆様が担当しました。大変ご難儀をおかけしました。



アドバイザーコラム 『原点回帰！今まさに公民館 ～活動拠点としての公民館を考える～』

昨年の県公民館大会の大会宣言におけるキーワードは、「魅力・学び・地域を紡ぐ」でした。地域住民の「居場所」として、公民館の存在意義は不変ですが、「魅力・学び・地域を紡ぐ」場として、岐路・転換期にさしかかっていることは事実です。全国公民館研究集会や国の関連審議会等においても同様のキーワードを目にすることができます。昨年度、住民ニーズを探るための各館職員同士の情報共有、初心者の方でも気軽に体験できる公民館教室の導入、魅力発信を支える運営審議会の機能等々、県南の多くの公民館等事業を視察する機会に恵まれました。

いずれも、地域課題と向き合い、地域性を生かしながら住民ニーズに応える取組です。「紡ぐ」アドバイザーコラムでは、各館の特色ある取組に加え、今年度特に、安心安全な地域社会を形成するための中核的な役割を果たす「防災・防犯」の拠点施設としての実践にも焦点を当て紹介させていただきます。

※標題『原点回帰！今まさに公民館～活動拠点としての公民館を考える～』は、第74回秋田県公民館大会テーマである。(このテーマに沿って、本会で研究討議が行われました。)